

令和5年度学校評価報告書

1 学校教育目標

- 1 真理の探究に心がけ、豊かな感性と高い教養、冷静な判断力を持った人となろう。
- 2 高い理想を抱き、強固な意志を持ち、物事を科学的に処理し、夢や希望の実現を目指して実践する人となろう。
- 3 豊かな情操を養い、社会の健全な発展に貢献できる心身ともに健康な人となろう。

2 本年度の重点目標

教育活動のすべてを通じて生徒の江南力（想像力・思考力・発信力・行動力・自己肯定力）を育成する。

3 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校経営	担任制の見直しにより、分掌部長と年次主任の連携が図られ、組織力向上に成果があった。 いじめ防止対策、危機管理マニュアルの見直し等について検討・協議し、新たに整えた。	学校経営目標の考えが教職員に相互理解され、学年・分掌・教科内での研修に十分に生かされ効果を発揮している。 学校経営参画意識の自己評価が高く、新たな検討事項においても、共通理解に基づく体制での取組がなされている。
改善方策	新たに整えた規定や体制を、適切に、かつ円滑に運用、活用する。	
教育計画	生徒の特性と進路希望や保護者の期待、地域のニーズ等を見極めた教育計画の実現に向けて適切に取り組んでいる。 定例分掌部会や中間評価会議等を活用したPDCAサイクルが機能している。	今後も引き続き、これからの社会で求められる力の育成に尽力していただきたい。 日々の教育活動における地域との連携・協働の一層の推進を期待する。
改善方策	「江南力」がそれぞれの教育活動における評価指標となるよう改善する。	
学習指導	授業評価アンケートの結果からも、授業改善は速やかに取り組むべき課題であり、ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの組織的な研修を行う。	DX推進により今後も積極的なICT活用に取り組んでいただきたい。 生徒の学習に関することについて、積極的な情報発信に取り組んでほしい。
改善方策	教科内研修のみならず教科の枠を超えた相互研修により、BYODを活用した授業改善を推進する。	
生徒指導	組織的な教育相談体制のもと、面談及びカウンセリングが効果的に行われている。	多様化する課題について、生徒との対話は不可欠であり、面談を重視した指導を継続してほしい。
改善方策	教室内に留まって授業を受けることが困難な生徒が増えていることから、養護教諭の加配を効果的に活用した予防的生徒指導に組織的に取り組む。	
進路指導	引き続き、適切な情報提供と進路ガイダンスの実施に努めるとともに、個々の進路実現に向けた進学講習や模擬試験の積極的な活用を促し、生徒の主体的な取組を支援する。	一人一人の生徒を複数の教員が日常的に面談を重ねて指導することは、進路指導にも大きな成果に結びついている。
改善方策	分掌主導で、模擬試験の過回比較、他校比較、過年度比較等の資料を整え、本校生の学力に関する標準レベルを全体で押さえるとともに、個別の進路志望に応じた添削指導等の充実を図る。	
健康安全指導	自己のメンタルを客観的に認識して管理する意識と行動の高まりが求められている。	交通安全教室等をさらに充実させて具体的事例を提示して指導に役立ててほしい。
改善方策	QUテスト、心と体のチェック、ピアサポート、個別面談等による情報を教員間で共有し、効果的な活用を推進する。	
特別活動・その他	生徒会行事や部活動における生徒の主体的な活動が充実感に繋がっている。	学校行事や部活動だけでなく、江南生として自発的に活動する姿は好感が持てる。
改善方策	生徒の健康と安全を第一に考えながら、生徒の主体的な活動を一層推進する。	
公表方法	本校HPで公表するとともに、PTA役員会や学校評議員会等において上記の概要を説明する。	